

令和6年度 大垣市食育推進会議 議事録

日 時：令和6年7月5日（金）午後1時30分から午後3時00分
 場 所：大垣市保健センター 4階 講堂
 議 題：大垣市第4次食育推進計画について
 （令和5年度実績報告および令和6年度事業計画）

出席者（敬称略）

（委員）久保 和弘《会長》

竹本 靖彦、近藤 裕之、松本 正平、吉田 勝美、多和田 智子、三輪 正直、
 小川 裕子、寺元 陽子、天岡 みち、大野 宏美、田邊 きぬ糸、河村 幸子、
 堀部 マサ

（欠席者：西脇 諭美）

（市及び事務局）

大澤 一弘（健康福祉部長）、川崎 彰浩（保健センター所長）、
 御田村 真理（保健センター課長）、内匠屋 ひとみ（保健センター主幹）
 田中 宣光（保育課主幹）、押見 恵子（保育課栄養士）、
 永井 康（子育て総合支援センター所長）、松岡 将宏（農林課主事）、
 安江 裕美（学校教育課主幹）、林 隆司（南部学校給食センター主幹）、
 皆川 孔子（保健センター主査）、森 美幸・内海 千尋（保健センター）

事務局	※開会にあたって（会長へ議事進行をお願いするまでの間、議事進行） 〈開会の挨拶〉（略） 〈議事進行については、大垣市食育推進会議設置条例第5条第2項の規定により、会長が会務を総括することとなっているため、以降の議事は会長が執り行う。〉
議 長	※保健センター及び各課に対し、「大垣市第4次食育推進計画について」の説明を要請。
事務局	※大垣市第4次食育推進計画について、資料1に基づき説明（略）
議 長	ただいま、事務局より説明がありました、「大垣市第4次食育推進計画について」ご質問、ご意見はございませんか。
議 長	資料1に載っている取り組みにおける目標値と、食育推進計画の最終的な評価のための目標値と、それぞれ目標があります。できればこの言葉を変えていただけるとわかりやすいかと思います。 資料1には回数や何校・何園という数字が書いてあり、これを目標値と

	して設定されています。この数値は、到達すれば必ず最終的な計画のところの目標値が到達するわけではない。この目標を達成すると、本来の目標が達成したかのように見えるので、資料1では目標でなく他の言葉を選んでいただけるとありがたい。この目標値は目標ではなくて、方法です。最終的な目標がございましたので、そちらに焦点を持っていくという意味で文言を改善していただけるとありがたいです。
委 員	給食の食材について、少し前に児童が誤嚥をして窒息したという事故があり、その後、食材を選ぶことを慎重になっているという話を聞きました。うずらの卵を誤って飲み込んでしまって窒息したということですが、それによって大垣市の給食も、食材に気をつけるようになったのでしょうか。近年、口腔機能の発達不全というのが注目されており、子供さんの食べ方とか、口周りの筋肉の発達低下が問題視されております。その辺を教えてください。
事務局	事件の報道があった翌日、朝一番で所長や栄養教諭と相談をしました。事件が起こった日から令和6年度の1学期まで、うずらの卵を使用する予定はなく、2学期においてはおでんや中華飯で使用する予定でしたが、やめました。3学期も使う予定は今のところありません。給食は小中学校だけでなく、幼稚園の3歳児の子にも出しておりますので、うずらの卵については使用をしません。 岐阜市から給食の調査があり、大垣市としては使う予定はありませんと回答しております。白玉団子についても岐阜市の調査がありました。白玉団子についても提供はしておりません。 以前、東京の方で保育園児がブドウを喉に詰まらせて、窒息したこともありますので、それ以降給食センターではブドウもお出ししておりませんし、大豆と小魚の飴がらめという献立がありますが、大豆についても消費者庁の注意喚起から、幼稚園の子に対しては10g程度入った小魚の袋を別途提供させていただいている状況でございます。 今後何があるかわかりませんのでアンテナを張り、情報があれば即座にセンター内で協議をして、子供たちが安心して食べるような形で進めさせていただきたいというふうに考えております。
委 員	ありがとうございます。 何でも駄目駄目になっちゃうので、食材が限られてしまいましたが、工夫して調理して食べるものを維持できるといいかなとは思っています。 近年の口の中に放り込んで食べる子どもが多いです。唇で食べ物の形を感じて、前歯で噛みちぎって食べるのが基本ですが、そういった運動も低下しているのかなというのを感じます。

委 員	大垣市第4次食育推進計画を見て、冊子7ページの好き嫌いの有無の最初の表に、幼児小学生中学生とも、好き嫌いがないというお子さんがずっと10%台で変わらないですね。その下の家で手伝いをするかどうかというところで、嫌いな子が手伝いをよくするあるいはいろんなことを家でやっている子は好き嫌いが少なくてそうじゃない子が多いという結論になっているのですが、年齢が上がっても好き嫌いのない子は、減らない、増えない。いろいろやっても変わらないということは元々の特質で変わらないという話になっちゃうので、あまりいい結論にならないものですから、どんな具合かなと、ちょっとした感想です。 資料1、16番、朝食の重要性について、令和5年度の目標値が90%で実績が94.8%、令和6年度の目標値もなぜか90%です。朝食欠食をなくそうという話をしているのではないかと思います。目標値が実績を下回っているのは、現状でいいですよと言っているふうにはしか見えない。あくまでも朝食の欠食を減らすことが目標であれば、到達できなくても、例えばこれを100%と謳う方が利にかなっているのではないかと思います。どうなのでしょう。
事務局	ありがとうございます。計画の33ページに5年後の目指す姿というところで目標を掲げております。そちらは朝食欠食率を国・県に合わせまして欠食0%という目標を掲げております。日々の事業目標も食べている子100%を目指していきたいなと思いますので、実績を下回るような目標ではなく、また検討いたします。ありがとうございます。
議 長	朝食欠食につきましては、第3次計画の平成28年から令和3年の5年間で小学生では5.4から7.0に欠食率が上がって、中学生では8.0から14.6に上がったという説明を以前受けました。目標値は0%に設定されましたが、委員の方から、上がっているものをゼロにするのはいかなものかと、もう少し現実可能性のある数値にした方がいいんじゃないかということもありましたので、そこはよく考えていただいて設定していただければいいと思います。 第3次計画の結果・概略を説明しますと、地域の農産物を知っている人の割合が増加、食べ残しを減らす努力をする人の割合も増加、市民の食に対する関心は高まっているように見えました。ただし、好き嫌いのある小中学生の割合は増えてしまったことや、小中学生の朝食の欠食率増加、給食の満足度の低下ということで、肝心の小中学生に対する食育の効果が見られなかったという結果だったと思います。そういったことを踏まえて第4次計画が組まれたということがあろうかと思います。 メタボリックシンドロームの割合が増加したという結果もありました。努力したにもかかわらず上がってしまい、そこを重点的に強化したということもございますので、強化した部分と今まで例年通りやってきて数字が

議 長	どうなっているか、見れたらいいと思います。 また、この計画だけではなく地域保健計画である、おおがき生き活きヘルスプランなど、生活習慣病等に特化した計画があります。情報共有しながら少し説明をしていただけると全体像が見えてきて、どこに注力すべきなのかとか見定めながら議論ができていいかと思います。
委 員	アンケートを実施した平成 19 年、23 年、28 年、令和 3 年で令和 3 年は回答者が少ないですね。例数が多かったり少なかったりすると、統計的に正しさが落ちるのではないかなと思うのですが。コロナ渦であったので数が少ないのかもしれないのですが、そのあたりの数字の信憑性の検討はされているのでしょうか。
事務局	アンケートの対象者数を見直して、対象の学年や子どもの保護者へのアンケートをなくした関係で母数が違ってきます。
委 員	母数が違うので、直ちに問題とは言い切れないだろうということです。例数が変わったときに率も変わりますが、統計的に有意に悪くなっているのか、それとも例数の問題で、数値上は悪くなっているけど統計的には差がないという結論になるかどうかを検討しているか。でないと数値だけを見て悪くなっているから駄目だというふうには言い切れないわけです。文章の中にも多くのところで『傾向がある』という表現の仕方がされているのですが、傾向があると言うには、理屈上、統計数値が有意水準何%未満でないといけないという、一応のルールがあります。 ただ、保健センターの方にそこまで検討してくださいというのは、少々無理があるだろうというふうに思います。でも、数値だけを見て良い悪いと話をしても仕方ないのではないかと。
議 長	ありがとうございます。ご指摘された統計処理は以前、指摘はあったと思います。数値が増減するってということが統計的にどうなんだと、大体水準 5%ぐらいで計算していただけるといいんじゃないかっていう話をした経緯があります。そこまで求めるかどうかということも議論になったはずですけども、統計的な処理はやはり必要かとは思いますが。 目標には回数がありますが、指導を何回行ったといっても、何人を対象にして行ったものかが見えてこないんで、実際の回数と人数も括弧して入れていただけるとわかりやすいかなとは思いますが。 統計処理の方は大丈夫なんでしょうか。
事務局	アンケートのそれぞれの質問に対して出た結果が、評価をするのに値するかどうかということについては、検証する必要があるとは思いますが、また見直していきたいと思います。

議 長	お願いいたします。 その他あるいは関連してでも構いませんので、何かお願いします。
委 員	どこで KPI を回すかというところがわかりません。 アンケートを行い、現状こうですと。でもあるべき姿はこうです。5 年間であるべき姿をめざします。そのために計画があり、これをやることでこういう結果になりましたっていうのが全然見えてこないですよ。やりました、で終わっている。出口を明確にして、やった結果どうだったのか。いい事業効果があったから倍にしましょう。やってもなかなか効果ないからやめましょうと。こういう議論がないと忙しい中集まっても、そうなの、で終わってしまう。 毎年アンケートを取って評価することは難しいにしても、例えばメタボの PR をすることによって、メタボ相談が増えて、それを指導した結果、糖尿病患者が減りました。ということじゃないかなと思います。KPI をどこで回すか。食育の目標としては、食を豊かにして、豊かな心を育て、豊かなまちにしていきましょう、というところの目標で、大垣市全体としてはこれをやったおかげで 2050 年には 13 万人の都市が維持できました。流入人口も増えて、選ばれる大垣になる。それぞれの部署、部下がそこへ向かって街を作っていく、地域を作っていくっていうところの一つの手段ですよ。手段ばかり言ったところであまり意味がないので、目標はどうだったのか、それに対してどうなのか。その結果、有効手段かどうか。あまり効果がないので、やめてこっちの方法を考えましたとか、そういう議論の方が、よりこの会が生きてくるんじゃないかなという感想を持ちました。 商工会議所で言えば、創業塾をやっています。去年は 30 名やったけど、今年は 80 名いました。日程も 7 日間から 9 日間になり、90 名来ました。でも、市内に何件創業してくれたかっていうと、ゼロです。これではあんまり意味がないですよ。なぜ 90 人も来て、ゼロなのか。それは指導員が 1 件あたりにかかる支援時間が短かったから、だから創業まで至りませんでした。だったら、来年は受講者 50 人にしようと。そうすれば支援時間が倍になります。というふう KPI どこで回すのかを示しながら、この資料作りをしていただくと、より有意義な会になるんじゃないかなというふうに率直な感想を持ちました。
議 長	はい、ありがとうございます。 数字をわかりやすく客観的に処理していくということで、基本理念の豊かな心、心のところは数値化するのは難しいと思いますが、健康な体では、人々の血液成分など、数値として明確化しやすいところがあります。食育を通じて市民の心と健康と暮らしを改善し、守っていくということで、一番重要なことは市民の命と健康であるという視点から、数字として客観的

議 長	に評価できるような形に持っていったらいいと思います。全てを統計処理するのは難しいかと思うので、市民の方が納得するような重要なポイントに注目して、特に食の安全性と生活習慣病をしっかりと見える化していったらいいのかと思います。
委 員	11 ページの44 番の環境SDGs 大垣フェスティバルにおいて食の地産地消を啓発する事業の目標値とか実績とかのところですけど、令和5 年度は5000 人で達成できなかったから今年は3000 人で達成できるのに落とそうというのは後ろ向きな感じがしますので、これも4000 人とか、ちょっとでも上向くような数値を目標にしに頑張っていたらいいかなと思いました。
議 長	はい、ありがとうございます。 令和6 年度の目標値については若干多めにということで、なるべく上を目指していくということで、よろしいんじゃないかなと思います。 他に何かございますでしょうか？
委 員	
議 長	皆様には長時間にわたりご審議賜り、ありがとうございました。 これをもちまして、議長職を終わらせていただきます。 ご協力ありがとうございました。
事務局	〈閉会の挨拶〉（略） ※閉会 (終了時刻：午後3時)
配布資料	▽大垣市第4次食育推進計画について (令和5年度事業実績および令和6年度事業計画)資料1